



挑戦するからこそ  
得られるものが  
ここにある。

# 2017

## 冬期 Winter special training camp

# 特訓合宿

### 対象

- 中学受験生 (小5・6)
- 高校受験生 (中2・中3)
- 大学受験生 (高1~3・高卒)





# 頂点に挑む

挑戦するからこそ

得られるものがここにある。

私たちは信じています。

「やればできる」からこそ、「できるまでやる」受験生が誰よりも強いということ。

受験を迎えるその日に、あなたの実力がもっとも発揮できようになることを。

そして、本当に頑張っているあなたが、「夢の志望校」に合格できることを。

より高いレベルを目指し、目標とする「夢の志望校」の合格に向けて、

一步一步挑戦する受験生を、私たちはサポートします。

質・量ともに、誰よりも充実した受験勉強をするために、

ぜひTOMASの合宿にご参加ください。

## 夢の志望校の合格を目指して 真剣勝負で競い合う

### 限られた時間を最大限に活かす

いよいよ入試の直前期を迎えます。小6受験生にとって、入試までの残された期間はあとわずかです。入試本番で1点でも多く得点できるように、1問でも多く問題量をこなし、1つでも多くの知識を身につけることが、合格につながります。

そしてそれ以上に、「できる問題」で1問でも失点しないように、スピードと正確さを磨くことが重要です。ただ「できるかどうか」ではなく、「何分何秒でできるか」が入試直前期の学習では欠かせません。

そこで、小6の合宿では、4教科の頻出問題や知識事項など、特に得点に直結しやすい内容に的を絞って得点にこだわった演習を行います。

また、小5受験生にとって、この冬はいよいよ名実ともに受験生になろうとする大事な時期です。扱う問題の難易度も上がってきて、どうしても算数・国語にかかる時間が多くなりがちですが、だからといって理科・社会の学習をおろそかにはできません。これからは、4教科の学習時間のやりくりとバランスが大きな課題になってきます。

そこで、小5の合宿では、短期間で集中的に学習できる環境を活かし、手薄になりがちな理科・社会にあえて絞って演習・解説を行います。

これからの限られた時間の中で大切なことは、4教科で1点でも多く点を取れる得点力を身につけることです。より効果的に、より得点に直結した学習をするために、ぜひ合宿にご参加ください。

#### 事前課題について

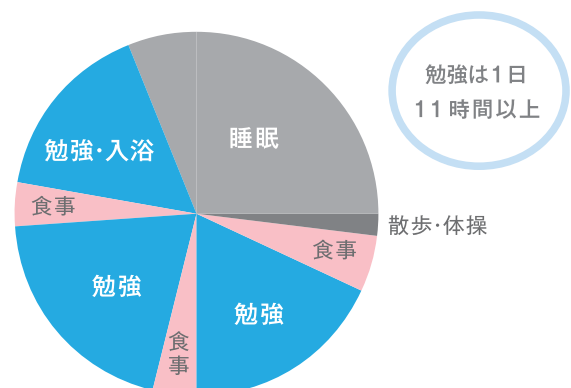
小5・小6の合宿では、学習効果を高めるために、事前課題をあらかじめお渡しします。合宿中にこの内容の確認テストを実施しますので、事前によく学習した上で合宿にご参加ください。

#### 小5 理社集中特訓 事前課題

教科	範囲
理科	植物・動物・地層
社会	歴史(旧石器時代~平安時代)

#### 小6 入試頻出問題速答トレーニング 事前課題

教科	範囲
理科	気体・水溶液・実験器具
社会	2018 コレだけはやっておきたい時事問題 公民分野



▲合宿における一日のスケジュール

# 合宿だからできること

## 小5 理社集中特訓

### 難関特訓コース

御三家中をはじめとする難関中学を志望する受験生のためのコースです。最難関中合格に向けて実力アップを図り、模試でも高得点がとれるように発展問題まで演習と解説を行います。

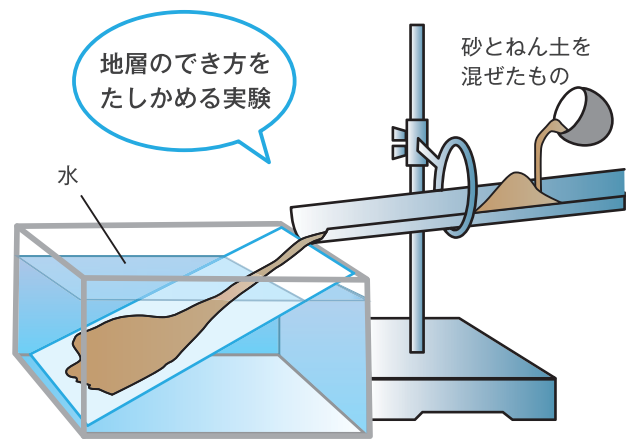
※クラス分けテストの結果によっては、「難関特訓コース」をご希望いただいた場合でも、理科・社会の一方または両方について「実力錬成コース」での受講をお勧めする場合があります。あらかじめご了承ください。

### 実力錬成コース

小5のうちに確実に身につけておきたい、理科の生物・地学分野、社会の地理分野や平安時代までの歴史などを重点的に復習します。何度も反復演習をしながら得点力アップを図ります。ここで理科・社会の復習をしておくことで、算数・国語も含めた受験勉強をより効果的に進めることができるようになります。

### 理科実験講座

両コースともに、「流れる水のはたらきと地層の作り方」について実験学習を行います。机上の学習ではイメージづらい単元ですが、実際の入試問題を実験で再現することで、体験を通じた知識の定着を図ることができます。



## 小6 入試頻出問題速答トレーニング

中学入試の直前対策を行うためのコースです。直前だからこそ、短期間で得点に結びつきやすい算数の一行問題・頻出問題や、国語・理科・社会の知識問題・時事問題について実戦演習します。

短時間で確実に、即答できるように数多くの問題演習を繰り返すことで、大幅に得点力をアップさせることができます。

特に理科・社会は、最近の時事・ニュースに関連した分野の内容から多く出題されます。ニュースそのものだけでなく、これらに関連する分野を重点的に復習していくことで、効率的に得点アップを図ります。



## 小5

# 理社集中特訓

## 夢の志望校合格からの逆算 短期集中トレーニング

**Q** なぜ合宿で理科・社会に絞って学習するのですか？

**A** 4教科の受験勉強をバランスよく効率的に進めるためです。

夢の志望校合格を勝ち取るためには、この冬までに苦手箇所・つまづき箇所を克服し、さらにレベルアップを図ることが大切です。特に小5の冬は算数・国語の難易度が上がり、苦手箇所・つまづき箇所が得意やすい時期です。この時期の、算数・国語の学習には、個人別カリキュラムをもとにした個別指導が最適でしょう。

一方で、理科・社会は知識の定着が重要な時期です。理科では生物・地学分野、社会では地理分野・歴史分野の知識が不可欠であり、その定着度によって1月以降の模試の成績も、今後の学習効率も左右されます。そこで冬合宿では、あえて理科・社会に絞り、短期間で集中して勉強できる環境を利用して効率よく知識の定着を図り、レベルアップを図ります。算数・国語の学習に時間が必要な時期だからこそ、合宿で理科・社会を短期集中的に鍛えることで、4教科の受験勉強をバランスよく効率的に進めることができるようになります。

**Q** どうすれば「難関特訓コース」に参加できますか？

**A** 特に理科の生物分野・地学分野、社会の地理分野の復習をしておきましょう。

「難関特訓コース」では、テキストの標準的な知識はすでに身につけていることを前提として演習・解説を行います。そのうえで、御三家中をはじめとする難関校の入試対策を念頭に、発展的な内容まで踏み込んで授業で扱います。

したがって、「難関特訓コース」で受講していただくためには、少なくともクラス分けテストの出題範囲については、その内容を十分に身につけておくことが必要です。

なお、「難関特訓コース」をお選びいただいた場合でも、事前に実施するクラス分けテストの得点によっては、理科・社会の一方あるいは両方について、「実力錬成コース」での受講をお勧めする場合があります。あらかじめご了承ください。

### クラス分けテスト 範囲

教科	範囲
理科	生物のたんじょう／流れる水のはたらき／水の変化／電流など
社会	日本の農林水産業／日本の工業／日本の貿易／日本の交通・通信／国土の利用など

クラス分けテストは、12/8(金)までにお通りの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

### 授業内容

#### 難関特訓コース

教科	範囲
理科	生物・地学の復習 水溶液・気体 力のつり合い
社会	地理の総まとめ 歴史(旧石器時代～江戸時代)

#### 実力錬成コース

教科	範囲
理科	植物・動物のまとめ 水の流れのはたらき・地層 理科計算の基礎
社会	地理の総まとめ 歴史(旧石器時代～平安時代)

※参加者数に応じて学力別のクラス編成を行います。それぞれのクラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

#### 全コース共通

計算・漢字の基礎トレーニング

小6

# 入試頻出問題 速答トレーニング

## より早く、より確実に解く

### Q 算数・国語の直前対策のポイントは？

#### A できるはずの問題で失点しないことが大切です。

入試直前期は、目新しい問題や難しい問題にあえて挑戦するよりも、易しい問題で失点しないように訓練することを優先しましょう。特に算数はミスをするかしないかで大きく得点が変わる、合格者と不合格者の差がもっとも開きやすい教科です。スピーディに、かつミスなく解く訓練が重要です。

また、国語では漢字・語句・文法など、知識問題での抜け漏れがないように確認をしましょう。このようにして、「1点」を手堅く得点することが、合格への早道です。

そこでこの合宿では、その知識の正確さとスピードを鍛えるための問題演習を中心として実戦演習を行います。

確かに、受験生それぞれの志望校対策をするためには個別指導が適しています。しかし、制限時間のプレッシャーがかかる中、他の受験生たちと得点を競い合う中で自分の実力を発揮する訓練をするためには、合宿のほうがより効果的な学習ができます。1点を争う緊張感の中で、より多く点をとることにこだわり続けることで、受験生は見違えるようにたくましく成長します。

### Q 理科・社会の直前対策のポイントは？

#### A 時事問題対策が得点力アップのカギです。

理科・社会の入試問題の多くは、身近な話題から各分野の知識を掘り下げていく形式で出題されます。入試問題では、しばしばニュースになった話題が切り口として使われますが、実際には、それに関連する分野の知識を問う問題のほうが配点は大きいのです。たとえば、衆議院が解散になれば、国会や内閣のしくみなどについての知識が問われる可能性は高いでしょう。

この合宿では、そのような最近の時事から入試問題を予想し、その関連する分野を掘り下げて重点的に復習することで、入試本番での得点アップを狙います。この対策だけでも、入試本番の合計点で10点や20点は容易に変わります。

### クラス分けテスト 範囲

教科	範囲
算数	入試頻出問題

クラス分けテストは、12/8(金)までにお通りの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

### 授業内容

教科	範囲
算数	一行問題演習 割合・図形・速さ・文章題
国語	慣用句・文法 語句の意味・用法
理科	水溶液・気体の性質 動植物総合
社会	今年の時事 入試出題予想問題

※参加者数に応じて学力別のクラス編成を行います。クラス分けテストの結果や、それぞれのクラスの生徒の学習状況によって、一部内容を変更する場合があります。

## 夢の志望校合格に向けて 大幅な成績アップを目指す

### 競い合いながら、志望校合格を目指す

志望校に合格するために大切なことは、他の受験生より1点でも多く取ることです。そのために大切なことは、「誰にでもできる」問題を、「誰よりも確実に」得点することです。入試で満点を取る必要はありません。ただし、他の受験生が知っていることは、自分も知っている。他の受験生に、スピードでも正確さでも負けない。そのために、ただ「解ける」だけで満足することなく、「何分何秒で」「どうやって」正解にたどりつくかが重要です。

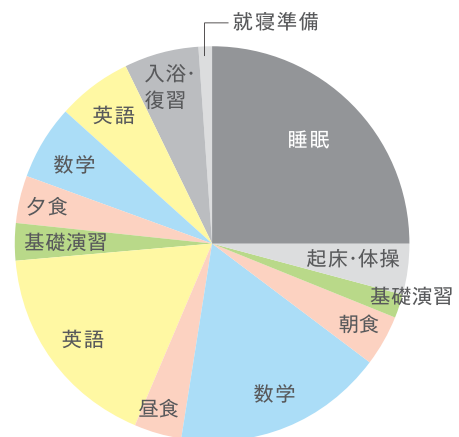
もちろん、国立高校や難関私立高校と、公立高校では求められる知識・スピード・正確さは異なります。そこで合宿では、志望校・学力別にクラス分けをしています。同じレベルの志望校を目指すライバルたちが多く集い合い、「1点」を競い合い、あるいはスピードを競い合うことが、受験生を大きく成長させるからです。お互いに刺激し合いながら、起床から就寝まで、1分1秒を大切に、受験勉強に集中できるのが合宿です。そして毎年、多くの受験生が、この合宿を機に大きく成績を伸ばし、夢の志望校の合格を勝ち取っています。

中3の受験生にとって、冬は入試直前のもっとも大事な時期です。そして、もっとも得点力が伸びやすい時期でもあります。また、中2の受験生にとって、この冬はいよいよ「受験生」として本格的な勉強をはじめめる時期にあたります。夢の志望校合格のために、ぜひ合宿にご参加ください。

#### 合宿参加者の主な合格校(2016年)

- 開成高等学校
- 都立日比谷高等学校
- 慶應義塾高等学校
- 早稲田大学高等学院
- 早稲田大学本庄高等学院
- 豊島岡女子学園高等学校
- 国際基督教大学高等学校
- 東京工業大学附属科学技術高等学校
- 桐朋高等学校
- 本郷高等学校
- 川越東高等学校
- 桐蔭学園高等学校
- 立教新座高等学校
- 明治大学附属中野高等学校
- 中央大学附属高等学校
- 中央大学高等学校

ほか多数



▲合宿における一日のスケジュール

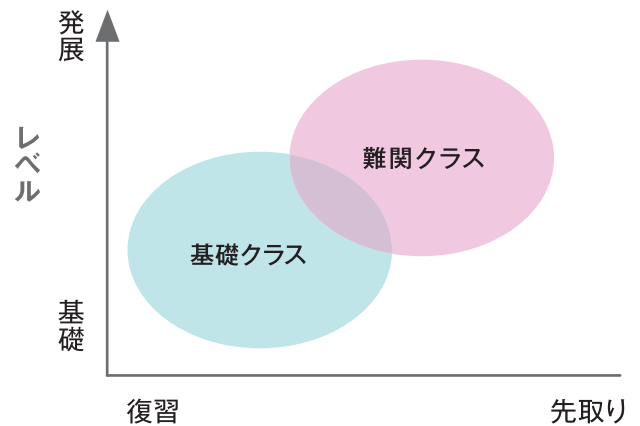


## 志望校・学力別のクラス編成

### 中2 英数集中特訓

数学・英語のそれぞれについて、クラス分けテストの成績によってクラス分けをします。

成績上位者は「難関クラス」で中3範囲の先取りを重視したカリキュラムで授業を進めます。それ以外の、復習が必要だと思われる受験生については、「基礎クラス」で中2までの範囲の復習を重視するカリキュラムで授業を行います。



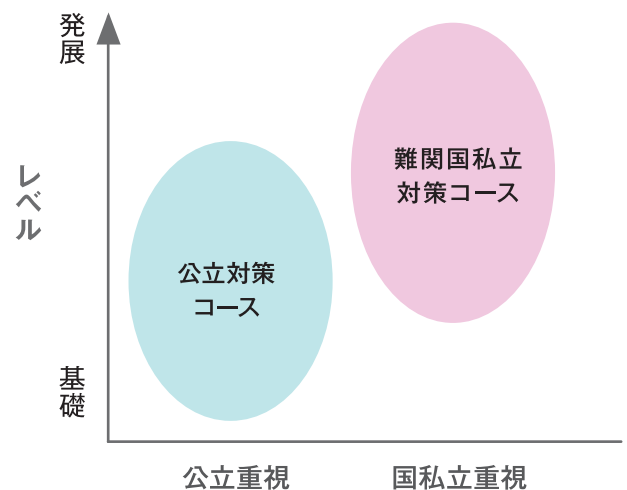
### 中3 英数直前特訓

#### 難関国私立対策コース

開成高校、国立大附属高校、早慶大附属高校や都立日比谷・西などをはじめとする難関高校を志望する受験生のためのコースです。入試レベルの問題演習を繰り返し行い、必須手法を身につけさせます。

#### 公立対策コース

東京・神奈川・千葉・埼玉の公立高校を志望する受験生のためのコースです。公立高校の入試問題と基礎固めを中心として、本番の入試で高得点を狙うための演習と解説を行います。



## 基礎演習

学習効率を飛躍的にアップさせるために、全コース共通で基礎計算力、英単語力の強化を図ります。このような「誰にでもできること」を「誰にも負けないレベル」に鍛えるだけでも、学習効率は大きく変わり、成績が伸びやすくなります。



## 中2

# 英数集中特訓

中2からのスタートダッシュが  
受験を有利にする

### Q クラス分けテストの範囲は？

#### A 中2全範囲および中3の先取り内容が含まれます。

クラス分けテストの範囲は、中2全範囲に加えて中3範囲も一部含まれます。難関高校を目指す受験生としては一般的な進捗です。既習範囲が定着しているかどうか、先取り学習をできているかどうかで、「難関クラス」と「基礎クラス」にクラスを分けさせていただきます。

### Q 難関高校を目指していますが、「難関クラス」に入るためにはどうすればいいですか？

#### A ① 先取りカリキュラムを ② 基礎計算力・英単語力の向上を

まず、難関高校を目指すためには、受験に必要な中3までの全単元なるべく早く身につけておくことが重要です。できれば中3の春、遅くとも中3の夏には全単元を身につけておきましょう。

そこから逆算して、「難関クラス」では、少なくとも中2までの全範囲を習得できていることを前提として、中3範囲の先取り学習に重点を置きます。クラス分けテストの範囲に、中3範囲が一部含まれているのもこのためです。

さらに、基礎計算力・英単語力の向上にも努めましょう。実際、合宿においても「超基礎計算」や「英単語実力テスト」の得点は、それぞれ数学・英語の成績と高い相関を持っています。

### Q 「基礎クラス」の授業内容は？

#### A 既習範囲までの復習を重視します。

中3になる前に、しっかりと基礎固めをしておくことが、成績アップの早道です。数学では特に式の計算と方程式・連立方程式など、英語では過去形や助動詞、不定詞など、中2までの範囲で特に重要なポイントに絞って復習をします。

#### クラス分けテスト 範囲

教科	範囲
数学	中2までの全範囲 式の展開
英語	中2までの全範囲 受動態

クラス分けテストは、12/8(金)までにお通いの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

#### 授業内容

教科	クラス	範囲
数学	難関	式の計算 式の展開・因数分解
	基礎	式の計算 方程式・連立方程式
英語	難関	助動詞・不定詞・ 比較・受動態など
	基礎	be動詞と一般動詞・ 助動詞・不定詞など

※クラス分けテストの結果や、それぞれのクラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

中3

# 英数直前特訓

入試直前だからこそ、  
「1点」を競い合う実戦演習を

Q 受験直前期に合宿に参加するメリットは？

A 合宿は、「1点にこだわる」「1点を争う」ことを、  
競争の中で学べる絶好の機会です。

具体的な単元や問題を挙げて、あるいは志望校の過去問を通して、一人ひとりの苦手箇所・つまづき箇所を改善していくためには、確かに個別指導が最適です。そのうえで、入試本番を意識し、同じテストを受けるライバルたちと「1点」を争う実戦演習をするためには、合宿が適しています。

言うまでもなく、受験は「1点」の差で合否が分かれる、シビアな競争の場です。ライバルを意識しながら、テストの場で、自分のベストを尽くすこと。「うっかりミス」を絶対に軽視しないこと。緊張感を持って、1問1問の問題に取り組み、順位を競い合うこと。それをできるのが、合宿のメリットです。

例年、開成・早慶大附属高校などの最難関高校を目指す受験生、公立トップレベルを目指す受験生などをはじめ、多くの受験生が集って真剣に受験勉強に取り組んでいます。そして、お互いに競い合い、励まし合いながら、合宿を通じて大きく成長した姿で、夢の志望校の合格を勝ち取っています。

Q 「難関国私立対策コース」「公立対策コース」の  
どちらを選べばいいですか？

A 第一志望校に応じてコースをお選びください。

開成・渋谷幕張などをはじめとする難関進学校、早慶・MARCHなどの大学附属校など、入試の得点で勝負が決まる高校を志望する受験生は「難関国私立対策コース」をお選びください。また、公立高校でも、都立日比谷・西など自校作成問題を出題する最難関高校を志望する受験生は「難関国私立対策コース」をお選びください。

「公立対策コース」では、東京・神奈川・千葉・埼玉の共通問題レベルの問題演習と解説を行います。なお、公立入試での高得点を目標として基礎固めと復習にも力を入れますので、基礎に不安のある受験生は「公立対策コース」をお選びください。

## クラス分けテスト 範囲

教科	範囲
数学	中3までの全範囲 (標本調査は除く)
英語	中3までの全範囲

クラス分けテストは、12/8(金)までにお通いの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

## 授業内容

### 難関国私立対策コース

教科	範囲
数学	関数・図形・整数問題など 難関高校入試問題演習
英語	整序英作文・長文問題など 難関高校入試問題演習

### 公立対策コース

教科	範囲
数学	式の計算・関数・標本調査など 全国公立高校入試問題演習
英語	語彙・対話文・英作文など 全国公立高校入試問題演習

※難関国私立対策コース・公立対策コースのいずれについても、それぞれの参加者数に応じて学力別のクラス編成を行います。そのクラスによって、扱う問題の難易度も異なります。

※クラス分けテストの結果や、それぞれのクラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

## 大学入試でもっとも大切な英語 英語漬けで「使える英語」を学ぶ

### 英語が「4技能」重視に変わる

いま、大学入試が変わろうとしています。そして、日本の教育そのものが変わろうとしています。

従来のセンター試験が廃止され、新しい「大学入学共通テスト」が実施されるのは2020年度からですが、すでに大学入試の出題傾向にも大きな変化が表れてきています。

特に英語は、「読む(Reading)」「聞く(Listening)」「書く(Writing)」「話す(Speaking)」の4技能を重視するようになってきました。これまでの大学入試では、「読む」「聞く」が重視されていましたが、最近では英語によるコミュニケーション力が重視されるようになってきました。

たとえばセンター試験では、「『読むこと』だけでなく『話すこと』、『書くこと』も含めたコミュニケーション能力の達成度を測れるような工夫をする」「新学習指導要領に沿ったコミュニケーション能力の育成を目指し、これまで徐々に部分的に変更してきた」(センター試験英語問題作成部会の見解)という方針で英語の問題が出題されています。

さらに国公立大学2次試験や私立大学の入試問題でも、自分の考えや主張を答えさせる英作文問題を出題する大学が増えています。また、英検やTEAP、TOEFL iBT®などのスコアを入試で評価する大学も着実に増えているのです。単に英語ができるかどうかだけでなく、「英語で何ができるか」が問われる時代を、今まさに迎えようとしています。

#### 英語の外部検定を入試に使える主な大学・学部

早稲田大学 文化構想学部・文学部  
上智大学 全学部  
東京理科大学 経営学部(ビジネスエコノミクス学科)  
筑波大学 全学群・学類  
お茶の水女子大学 全学部  
立教大学 全学部  
青山学院大学 文学部(英米文学科)、経済学部、経営学部、  
国際政治経済学部(国際政治学科、国際  
コミュニケーション学科)  
明治大学 政治経済学部・経営学部・商学部  
中央大学 法学部・経済学部・文学部・総合政策学部  
学習院大学 国際社会科学部

ほか多数

#### 最難関大学における英作文の出題例

あなたがいま試験を受けているキャンパスに関して、気づいたことを一つ選び、それについて60~80語の英語で説明しなさい。

〈2017東京大学〉

以下の設問(A)、(B)の中から一つ選んで、問題文I~IIIをもとにして、自分の意見を英語で書きなさい。

(A) Should the Japanese government set a national minimum wage? Why, or why not?

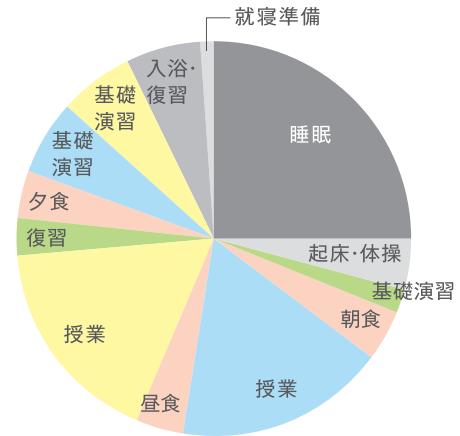
(B) Should the Japanese government abolish the inheritance tax? Why, or why not?

〈2017慶應義塾大(経済) 趣意〉

## 志望大学・学力に応じたクラス編成

この合宿では、大学受験でもっとも大切な科目である英語に絞り、集中的に鍛えます。

コースには「ネイティブと学ぶ 英作文・記述対策」と「センター試験 英語直前対策」の2つがありますので、いずれか一方を選択してください。選択していただいたコースの中で学力別のクラス編成を行いますので、必ず12/8(金)までに教室でクラス分けテストを受験してください。



▲合宿における一日のスケジュール

## 「ネイティブと学ぶ 英作文・記述対策」コース

基礎となる文法・語彙を日本人講師から学びつつ、ネイティブによる添削指導も行いながら、英作文・記述対策を行うコースです。4技能のうち、特に「書く」ことに力を入れて学習を進めます。

志望校・学力に応じたクラス分けをした上で、上位クラスについては難関大学などで出題される自由記述の対策なども行います。一方、英語が苦手な生徒には、基本例文をもとに基礎的な英作文の学習と添削を行います。



## 「センター試験 英語直前対策」コース

センター試験で満点を狙う受験生、高得点を取りたい受験生のためのコースです。

センター試験の大問ごとの出題傾向にあわせた問題演習・解説、センター本番を想定したテスト形式での問題演習・解説、基礎となる語彙・文法の演習の3つを柱として授業を行います。受験生がつまずきやすいポイントに絞り、知識の正確さと処理速度の向上を図ります。



高校

# ネイティブと学ぶ 英作文・記述対策

## 「使える英語」を学ぶ貴重な機会

**Q** 「書く」ことを重視するのはなぜですか？

**A** 英作文によって「書く力」「表現力」「思考力」を試す入試問題が増えているからです。

大学入試の英語で「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を評価しようとする動きが活発になっています。このうち、「読む」「聞く」については、従来型の入試でも対応できているものです。また、「話す」については、英検やTEAP、TOEFL iBT®のような外部検定に頼らざるを得ません。しかし、「書く」については、大学側も独自の工夫をできる技能です。

そして、「書く」力を試すために、従来よく出題されていた「和文英訳」や「条件英作文」だけでなく、自分の考えや主張を述べさせる英作文問題が増えているのです。そしてこれかも、英語で「表現力」「思考力」を試す入試問題が、ますます増えていくはずで

だからこそ、この合宿では「自分の考えたことを英語で書く」ための練習に力を入れているのです。だからといって、最初から難しいテーマについて英文を書ける必要はありません。それぞれの学力・レベルに応じた英作文・記述対策を行えば、必ず力がつきます。

**Q** クラスによって授業内容が異なりますか？

**A** 志望校・学力に応じたクラス分けをしますので、授業で扱うテーマ・内容はクラスごとに異なります。

上位クラスの生徒には、東大・一橋大・早稲田大・慶應義塾大・上智大などの難関大学の入試問題や、時事的なテーマやニュース素材などについて、それぞれの考えや主張を書かせ、発表し合ったり、ネイティブが添削したりしながら授業を進めます。

一方、英語が苦手な受験生には、基礎となる文法・語彙・基本例文などを学びながら、それらを組み合わせて自分なりの英文を組み立てたり、表現したりする練習を行います。

### 英語の「4技能」

大学入試に限らず、これから日本の英語教育では「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能がすべて求められるようになっていきます。

新大学入試は現中3の世代からですが、4技能で英語力を評価する英検、TEAP、GTEC等の検定を大学入試に活用しようという動きがすでに始まっています。

これら検定のスコアから、その英語力を評価する目安として用いられるCEFR（セファール）も、最近では認知度が上がり、一般的になってきました。

いずれにしても、これからは「英語ができるか」ではなく、「英語で何ができるか」が問われる時代です。グローバル化する現代において、英語の習得がますます重要になっていくことは間違いないでしょう。



▲英語の4技能

高校

# センター試験 英語直前対策

## センター試験で高得点を狙う

**Q** この合宿では、センター試験対策として、  
どんな勉強のやり方をするのですか？

**A** 160点以上を狙うために必要なのは、

- ① 英単語
- ② 英文法・語法
- ③ スピードを備えた読解力

**の3点です。合宿では、これらを徹底的に鍛えます。**

センター試験で160点以上をとるためには、配点が大きい長文問題での失点を極力なくすることが重要です。そのためには、まず「知らない単語がない」という状態を作りましょう。それだけでも、160点以上をとれる確率はかなり高くなります。得てして、ここでつまずいている受験生がたくさんいます。

英文法・語法についても、センター試験の英語は、高2までの範囲で十分に対応できる問題がほとんどです。まずは標準的なテキストでしっかりと練習すれば、大きな失点を防ぐことができます。

そのうえで、制限時間80分以内で確実に解き終わることができるように、実戦形式で練習しながら、時間配分を体で覚えることが大切です。この段階で、英単語や英文法・語法の知識が曖昧だと、それだけでもかなり時間をロスしてしまいます。時間を節約するためにも、英単語、英文法・語法は見た瞬間に意味や例文が思い浮かぶように、音読・反復トレーニングをしながら身につけることを強くお勧めします。

合宿では、この英単語、英文法・語法、スピードを備えた読解力の3点について、何度も反復をしながら徹底して鍛えます。たとえば英単語については、1冊の単語集を1日で1周するペースで反復演習を行い、テスト形式の問題演習を繰り返し行います。

わずか4泊5日の合宿ですが、非常に高い効果があります。ぜひ、ご期待ください。

### センター試験の出題方針は？

センター試験の出題方針は、(独)大学入試センターから毎年公表されており、平成29年度の場合は次のような内容でした。

- (1) 高等学校学習指導要領に準拠し、「読むこと」だけでなく「話すこと」、「書くこと」も含めたコミュニケーション能力の達成度を測れるような工夫をする。
- (2) 現代の標準的な英語を言語材料とする。
- (3) 語彙、語法、慣用句、文法、表現に関する知識だけでなく、社会言語的側面、談話的側面、方略的側面も含め言語運用能力を総合的・多角的に測る。また、情報を整理し、統合し、批判的に考え、思考する力を測る工夫をする。
- (4) 取り上げる題材は、受験者にとって有用で一般的なものを選ぶ。
- (5) 問題は易しいものからやや難易度の高い発展的なものまで幅広く用意し、受験者の達成度を公正かつ正確に測ることができるよう留意する。
- (6) 使用する語彙は、高等学校における英語の履修範囲を考慮して選択する。長文読解や読解方略に関わる問題においては、やや頻度の低い語句を使うこともあるが、その場合でも文脈から推測できるように配慮する。
- (7) 過去の試験問題評価委員会報告書において要望や批判があった事項について、出題の形式、内容の改善を図る。  
(平成29年度「試験問題評価委員会報告書」より)